

つながって、越えていこう。

市民と歩んだ活動の記録：日本共産党仙台市議団



日本共産党仙台市議団ニュース No.718

仙台市青葉区国分町3-7-1 仙台市役所内 ☎ 214-8786

webサイト jcp-sendai.jp

見たことのない景色が、見える。



日本共産党の本領

市民から出発し、市民の声を政治にかすパイプ役となる——。時代の風向きがどう変わろうと、そういう党であり続けました。党をつくって96年。

2017年夏、市政が動きだします。「現場主義」を掲げる郡和子市長が誕生。生活の声がつつぎと市政にいかされ始めました。それらは、前市政時代にはね返されてきた声。日本共産党がそれでもあきらめず訴え続けてきた、市民の切実な願いです。

希望をもって声をあげ、たくさんの願いを実現するチャンスです。市の財政は大幅な黒字です。暮らしのすみずみに、予算を振り向けていく市政へ。いま、わたしたちは、見たことのない景色を見ている。



市民の声が 届いた。



市にエアコン設置を求める日本共産党市議団の緊急要望（2018年8月7日）

学校にエアコン

今年、教室にエアコンがつく。共産党は、ずっと訴え続け、ついに議会の全会派が声をあげるまでになり、市長の決断を引き出した。



35人以下学級

35人以下学級が、中学校で実現する。共産党は、市民といっしょに署名運動も進めてきた。小学校全学年にも広げるよう求めている。

就学援助の支給

就学援助のなかの新入学学用品費の支給時期が、入学後の7月から、入学前に改善された。「助かった」の声が多数あがっている。

保育士へ助成

仙台市は、若手保育士に月 5000 円を助成する。民間事業者が保育士の宿舍を借り上げる際、その費用にも助成する。



乗客を乗せ団地内を走行する「のりあい つばめ」(宮城野区)



乗合タクシー

燕沢～鶴ヶ谷間に乗合タクシーが試験運行された。10人乗り乗用車だ。料金は200円。市の助成も実現。共産党が10年来取り組んできた運動が実った。



市長への要望後、詰めかけたマスコミに応じる被災者代表 (2017年11月9日)

復興住宅の家賃減免

減免継続を求め、被災者が署名運動に立ち上がった。切実な行動にマスコミも注目した。郡市長は、減免継続を決断。共産党は、被災者の声を訴え続けた。



稼働中の石炭火力「仙台パワーステーション」(仙台港)

石炭火力を規制

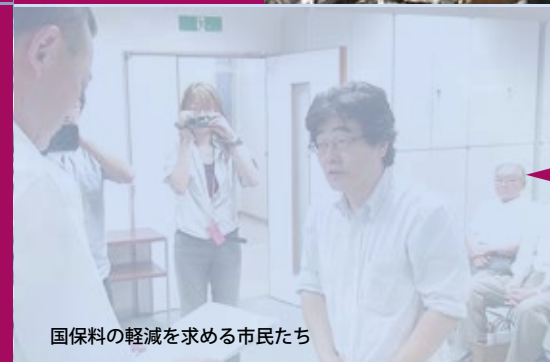
郡市長は、石炭火力発電所の立地を抑制する方針を出した。四国電力などが計画した建設は、とん挫。市民の運動が市長を動かした。



子ども食堂では、魚の食べ方も学ぶ (宮城野区)

子ども食堂に助成

子ども食堂の開設と運営に市が助成を決めた。共産党は、公的支援を求めてきた。子ども食堂の運営にも各地で参加している。



国保料の軽減を求める市民たち

国保料が軽減

市は、18歳未満の子どもがいる世帯の国保料を減免した。共産党は、国保会計の黒字を明らかにし、引き下げを主張してきた。



暮らし守る財源

共産党は、施策を提案する際、財源をきちんと示し、実現可能なことを明らかにする。そうしてルールを敷き、数々の施策を実現している。

インタビュー



庄司あかり

2期8年 若林区

——復興住宅の家賃減免継続では、議会質問が突破口を開きました。

家賃を入居6年目から値上げするという仙台市の通知に、入居者のみなさんは、びっくりでした。わたしは、入居時の文書には、10年間家賃はそのままと書いてあること、国から家賃軽減のために多額のお金がきていることを突き止め、取り上げました。議会質問が署名運動につながり、減免が継続され、うれしかったです。

——下水道の“秘密管”を取り上げ、全国ニュースとなりましたね。

大雨時、污水管に雨が流れ込みマンホールやトイレから逆流するのを防ぐため、汚水を雨水管に通す緊急避難管を作り、汚水を川へ放流していました。市内111カ所、30年以上も隠されていました。これを議会で取りあげたら、ワイドショーで全国に放映されました。污水管に雨水が流れ込むのを改善するよう、予算の増額を求めているところです。

——重度障害児たちが利用する放課後デイサービスが増設されましたね。

重度障害児のママたちが市長に要望書を出そうとなり、ネットで賛同をつのったところ、2200人の賛同が寄せられました。ママたちが議会に来て、全会派を回って訴えました。わたしのお腹には、娘がいたのですが、はじめての出産の不安も先輩ママたちの姿を前に、吹き飛びました。



インタビュー



すげの直子

3期12年 青葉区

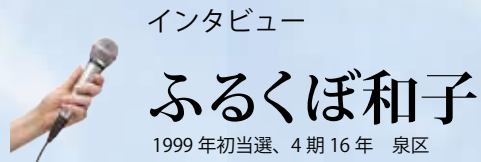
——ひとよんで「エアコン議員」(笑)。学校エアコンを訴えてきました。

12年前、議員になったときから取り上げてきました。「教室が暑すぎる！」の声をずいぶん聞いていたので。当初、市側は「東北は暑くないですから」と、けんもほろろでした。何度も何度も、夏の学校の実情を伝えるなか、市は室温調査に乗り出し、音楽室、コンピューター室、保健室にエアコンが設置されていきます。教室へのエアコン設置について「検討の課題だと認識している」と答弁も変化しました。そして郡市政になり、今年、全校の普通教室、職員室に実現します。時間はかかったけど、子どもたちの強い願いだったので、絶対にあきらめないと思って取り上げてきました。

——入学準備金の前倒し支給は、とても喜ばれています。

シングルマザーの友だちの間で「入学準備金は、入学前に支給してもらえば助かる」と話になっていました。入学式は、晴れやかだけど、準備にかかるお金は大変。だけど、わが子をみんなと同じようにしてやりたい。親心です。少しの額ではあるけどホッとできるようにと、議会で入学準備金の前倒し支給を提起しました。市当局も「研究したい」と受け止めてくれ、うれしかったですね。がんばって生活している人たちが少しでも元気がわくような、そんな政治にしていけるのが、わたしたちの役目だと思っています。





—— 貧困の解決を訴えてきましたね。ケースワーカーも増員されています。生活保護の家庭を援助するのがケースワーカーです。議会で繰り返し、増員を求めてきました。ケースワーカーは、憲法25条の一番の使い手です。25条は、最低限の生活を営む権利をうたっています。命を支える最後の砦、ここが壊れると、ホームレス生活や死に直結する。そうした仕事をする体制が強化されることを、うれしく思います。

—— 議員になる前は、医療ソーシャルワーカーという福祉のプロでしたね。大阪から仙台の東北福祉大学に入ったのは、誰もが平等に幸せに暮らせること、それをかなえるのが福祉だと知り、福祉の仕事をしたと思ったことがいちばんでした。いまでも憲法25条という立脚点は、変わりません。

—— 35人以下学級では、積極的な提案が実現への道をつけました。先生と子どもたちが密に向き合える、そんな学校をPTA活動をやりはじめたときから願ってきました。仙台では、いじめによる中学生の自死が相次ぎました。先生たちが忙しすぎる、それで子どもたちが発するメッセージが届きにくくなっている。そんな現状を、いじめ防止対策の特別委員会のなかでも問題提起しました。子どもは、誰からも愛される権利を持っています。



—— 市政が前進していく展望をどのように見通しているのでしょうか？ この数年間で、政治が一変しています。国政では、市民と野党の共闘が進んでいます。市民が主権者として声をあげる流れは、仙台でも強まり、一昨年は、市長を替えるまでになりました。郡市政になってから、市民の力が発揮され、市政にいかされています。この力を、市長が公約でふれなかった分野、たとえば公立保育所の整備などにいかしていきたいですね。

—— 花木さんは、脱原発の市民運動の先頭にもたってきました。福島原発事故のとき、仙台の放射能汚染の様子は、誰もわかりませんでした。当時、どこも測っていなかったんです。議会で、まずは空間放射線量の測定をと提起しました。そして、市内600カ所で定期的な測定が実現しました。学校や保育所では、プールの底、雨水が溜まる場所も測るようになりました。

—— ち密な提案が市政を動かす。35人以下学級もそのひとつですね。35人以下学級について、まずは市側と、それは必要だと認識を共通のものにしました。その上で、どのくらい教員を増やさなければならないか、そのための予算をどうするのかを具体的に提起しました。トップ（市長）が替わり、市の各部署も、市民に必要な施策を実行できるようになりましたね。





インタビュー

高見のり子

3期12年 宮城野区

—— 燕沢・鶴ケ谷地区で乗合タクシーの試験運行が始まりましたね。

鶴ケ谷では、通院や買い物の足となる地域交通を求めて、10年来の住民運動がありました。4年前から、共産党が住民の方々に呼びかけて、地域交通の勉強会を重ねてきました。郡市政になり、地域公共交通の支援事業がスタートし、昨年11月、待ち望んだ乗合タクシーが試験運行されました。住民の要望や不安に市の課長さんたちが積極的にこたえてくれてましてね。住民と行政とがリスペクト（尊敬）しあい、心を通じ合わせ、実現したものです。

—— 子ども食堂の立ち上げに積極的に関わってきましたね。

宮城野、鶴ケ谷、高砂で子ども食堂が開設されました。生活困難な家庭が広がるなか、地域の人たちがはじめたものです。郡市政が誕生してから、市内の子ども食堂が共同して市に要望書を出し、食堂への助成を求めました。昨年4月、支援制度が実現しています。市民運動の力ってすごいですね。

—— 高見さんは、人と人との接着剤みたいですね。

住民運動は、人と人とのつながりです。互いの立場を尊重しあう。そして、地域ぐるみで市に要求をだし、それを市が受け止める。こうしたことが郡市政になって加速しています。共産党と住民との間にも、壁は全然ありません。



インタビュー

嵯峨サダ子

6期24年 太白区

—— 議員になって24年、地震に強い都市への思いは、いっかんしてますね。

はじめて市議選挙に立ったとき、阪神淡路大震災がおきました。建物の下敷きになって多くの人が亡くなった。二度とあってはならないと思いながら、議員になりました。建物の耐震改修を進めるため、改修に補助を出す条例を提案し、実現しました。その後、耐震化は進みました。東日本大震災では、多くの犠牲者が出ましたが、下敷きで亡くなった人は、いません。

—— 郡市長の「現場主義」をどう見えていますか？

市民の声を聞くというスタンスだと受けとめています。共産党は、市民の声をいかにため、市民とともに郡市政を支える立場です。石炭火力発電所の立地に反対する市民運動がおき、郡市長は、立地を抑制する画期的な方針を出しました。復興住宅の家賃減免問題でも「生の声を聞きたい」と被災者と話し合いを重ね、減免継続を決断しました。

—— 嵯峨さんは、いろんな住民運動にかかわってきましたね。

住民運動の当事者たちは、強いです。要求が切実ですから。わたしは、住民運動のなかでたくさんのことを学んできました。道理があれば、時間がかかっても通じる。これが、そのなかで得た確信です。



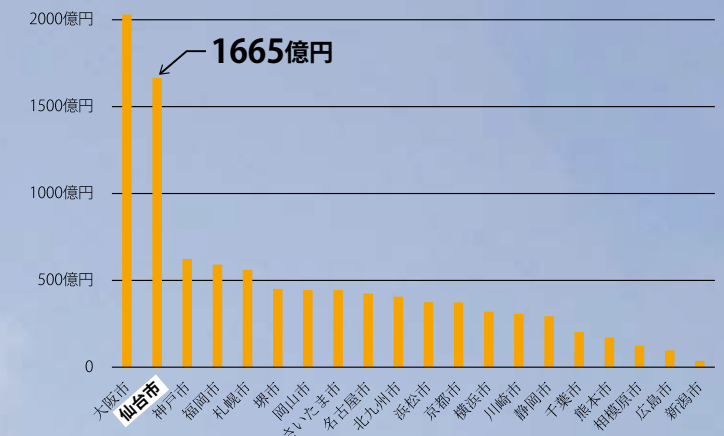


実現します。 共産党の緊急政策

- ・ 給付型奨学金制度（返還不要）の創設と奨学金返還支援制度の拡充
- ・ 若者や子育て世代へ家賃補助
- ・ 正規雇用の拡大（中小企業支援と一体で）
- ・ 認可保育所の整備で待機児童ゼロ
- ・ 国保料の引き下げ
- ・ 地域公共交通の確立（バス増便、乗合タクシーなど）
- ・ 敬老乗車証の利用上限を撤廃。介護サービスの充実
- ・ 被災者への支援充実（コミュニティ支援、日照問題など）
- ・ 障害者支援の充実（医療費窓口無料化など）
- ・ 35 人以下学級を小学校全学年に拡大

震災後（2011年度以降）、仙台市の財政は好転しています。大幅な黒字になっており、福祉や教育のための予算は、十分あります。基金（積立金）の総額は1665億円。全国約1700ある市区町村の中で2番目というため込みです。

積立金の政令市比較 （2016年度決算）



国民の声がいきる時代、 すぐそこ。

2019 年、安倍政治サヨナラ。

自民党、公明党が支える安倍政権は、国民の声を無視し、暴走の限りをつくしています。それとたたかう市民と野党の共闘も大きく進んでいます。

国の政治は、市政にも影響します。日本共産党は、国や県に堂々とものを言う市政をつくります。



■ 女川原発再稼働ストップ。原発ゼロ

原発事故へのいちばんの備えは、原発をなくすことです。女川原発はじめ、日本のすべての原発の再稼働に反対し、廃炉を求めます。太陽光や風力、水力、地熱など再生可能エネルギーへ大転換をはかります。

■ 消費税10%増税ストップ

市内102団体が市議会に提出した10%増税の中止を求める請願。ところが市議会は、反対し否決してしまいました（共産党と社民党は賛成）。消費税を増税しなくても、大企業向けの優遇減税などをやめれば、社会保障の財源は十分確保できます。

■ 改憲と大軍拡にストップ

安倍政権の改憲は、憲法9条に自衛隊を明記し、日本が海外で戦争できるようにするものです。そして、アメリカの兵器を爆買い。攻撃型戦闘機6.2兆円より、社会保障や教育でしょ！憲法改悪、大軍拡を許さない市政をつくります。